

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)  
GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー):バッファーEW1

初回作成日:2025年3月13日  
前回改訂日:一年一月一日  
最新改訂日:2025年7月1日  
版番号:第2版

## 1. 化学物質等及び会社情報

### 1.1 化学物質等の名称

製品名	GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー)
製品番号	GA121-202 (2回用) GA121-220 (20回用)
バッファー名	バッファーEW1 Buffer EW1

### 1.2 化学物質等の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	試験研究用実験試薬
使用上の制限	専門ユーザー向け

### 1.3 提供者の詳細

製造元の会社情報	GENEALL BIOTECHNOLOGY CO., LTD GeneAll Bldg., 303-7, Dongnam-ro, Songpa-gu, Seoul, 05729, Korea
供給者の会社情報	日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号 後楽森ビル18階 電話番号:03-3813-0961 ファックス番号:03-3813-0962
供給者の緊急時連絡先	電話番号:03-3813-0961 (祝祭日を除く、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時30分) Eメール:info@genetics-n.co.jp

## 2. 危険有害性の要約

### 2.1 化学品のGHS\*分類

危険有害性項目	危険有害性区分/細区分
物理化学的危険性	GHS*分類基準に該当しない。
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分:4
皮膚腐食性/刺激性	区分:2
眼に対する重篤な損傷性/ 刺激性	区分:2A
環境に対する有害性	GHS*分類基準に該当しない。

### 2.2 GHS\*ラベル要素

絵表示又はシンボル	 GHS07
注意喚起語	警告
危険有害性情報	
物理的危険性	物理的危険性のある物質又は混合物ではない。
健康有害性	H302: 飲み込むと有害 H315: 皮膚刺激 H319: 強い眼刺激
環境有害性	環境有害性のある物質又は混合物ではない。

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー): パッファーEW1**

注意書き	
安全対策	P264: 取扱後は皮膚/手をよく洗うこと。
	P270: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
	P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
	P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P330: 口をすすぐこと。
	P332+P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
	P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
保管	P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
	混触危険物質から遠ざけ、涼しく乾燥した換気の良い場所で密栓して保管すること。
廃棄	P501: 内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。

**2.3 GHS\*分類に該当しない、又は GHS\*で扱われない他の危険有害性**

NFPA*の表示システム(0-4)	H(健康危険性):-、F(燃焼危険性):-、R(反応危険性):-、特定の危険:-
HMIS*の表示システム(0-4)	健康障害の危険:-、火災の危険:-、反応性:-、特定の危険:-

**3. 組成及び成分情報**

**3.1 化学物質・混合物の区別**

単一製品・混合物の区別	混合物(下記を含む水溶液)
-------------	---------------

**3.2 化学名又は一般名**

	化学名又は一般名	CAS*番号	濃度又は濃度範囲
①	グアニジン塩酸塩 Guanidine hydrochloride/Guanidinium chloride	50-01-1	25~50%
注意	危険有害性のない成分の組成及び正確な濃度は、企業秘密として非公開が認められています。 残りの成分は、非危険有害性物質であると見なされ、開示義務の限度を下回る量で存在します。		

**4. 応急措置**

**4.1 応急措置**

一般的アドバイス	接触又は吸入後に遅れて症状が出る場合がある。
	必要な処置をとるために、この SDS を担当医に見せること。
暴露経路ごとの応急処置	
眼に入った場合	瞼を広げて眼を水で 15 分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	炎症が続く場合は、医師の診察/治療を受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚や髪を水、又はシャワーで洗い流すこと。
	皮膚(又は髪)に付着した場合は、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
	炎症が生じた場合は、医師の診察/治療を受けること。
吸入した場合	患者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。
	症状が続く場合は、医師の診察/治療を受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合は口をすすぎ、吐かせないこと。
	直ちに医師の診察/治療を受けること。

**4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状**

急性症状	データなし
遅発性症状	データなし

**4.3 その他の情報: 特になし**

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー): パッファーEW1**

**5. 火災時の措置**

**5.1 消火剤**

適切な消火剤	耐アルコール性泡消火器、二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )消火剤、水噴霧、乾燥砂
不適切な消火剤	データなし

**5.2 火災時特有の危険有害性**

危険有害性	激しい重合反応により、火災や爆発を引き起こす可能性がある。
	蒸気が発火源まで移動し、発火する恐れがある。
	引火点以上で、爆発性混合物を形成する恐れがある。
	加熱により容器が爆発する恐れがある。
	可燃性: 熱、火花、炎により容易に発火する。
	漏出すると火災/爆発の原因となる可能性がある。
	屋内、屋外、下水道では、水蒸気爆発の危険がある。
	蒸気は空気と爆発性混合物を形成する恐れがある。
	蒸気が発火源に到達し、フラッシュオーバー/バックドラフトする可能性がある。
	吸入又は摂取すると有毒な可能性がある。
	引火性のある液体及び蒸気である。
	接触すると眼や皮膚に重度の火傷を引き起こす可能性がある。
	蒸気はめまいや窒息を引き起こす可能性がある。
金属の腐食を引き起こす恐れがある。	
有害燃焼副産物	燃焼時の熱分解や燃焼により、刺激性の高い有毒ガスが発生する恐れがある。
	加熱すると分解し、腐食性/有毒なヒュームが発生する恐れがある。

**5.3 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置**

消火を行う者の保護	消火活動を行う際は、適切な保護具を着用すること。
	火元から離れた安全な場所から消火すること。
	消火水処理のために溝を掘り、拡散させないこと。
	危険でなければ火災区域から容器を移動すること。
	タンク火災の場合: できるだけ離れたところから消火するか、無人消火設備を使用すること。 消火後もタンクを多量の水で冷やすこと。 甲高い音がしたりタンクの色が変わったりした場合は、すぐにその場から離れること。 火災中はタンクに近づかないこと。 無人消火設備を使用できない場合は、燃えるままにすること。
予防措置	データなし

**5.4 その他の情報 : 特になし**

**6. 漏出時の措置**

**6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

人体に対する注意事項	非常に微細な粒子は火災や爆発の原因となることがあるため、すべての着火源を取り除くこと。
	漏出物をすぐに拭き取り、項目 8.3 を参照すること。
	漏出物との接触を避けること。
	泡消火剤により蒸気を減少させることができるため必要に応じて使用すること。
	粉塵の発生を避けること。
	避けるべき材料や条件に注意すること。
	粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
保護具	適切な保護具なしに破損した容器や漏出物に触らないこと。
	火災を伴わない漏洩の場合は、フルフェイス蒸気防護服を着用すること。
緊急時措置	全ての火元を除去し、危険でなければ漏出を止めること。
	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐこと。

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドキシンプリー):パUFFER-EW1**

**6.2 環境に対する注意事項**

環境に対する注意事項	漏出は汚染の原因となるので注意すること。
	製品が、排水路/下水道/地表水/地下水や密閉された場所に排出されない様に注意すること。
	環境中に直接放出しないこと。

**6.3 封じ込め及び浄化の方法と機材**

封じ込め方法	不活性物質(乾いた砂や土など)に吸収させて容器に入れること。
浄化、回収、中和方法	処理が終了したら汚染された領域を洗剤と水で洗い流すこと。

**6.4 その他の情報** : 項目 8 及び項目 13 に関する情報を参照すること。

**7. 取扱い及び保管上の注意**

**7.1 取扱い**

安全取扱注意事項	SDS/ラベルの注意事項に従うこと。
	換気の良い場所で取り扱うこと。
	この製品を取り扱い際は、すべての機器を接地させること。
	皮膚、眼、衣服への接触を避けること。
	項目 8 を参照のこと。
	皮膚に付着した場合:石鹼と水で洗うこと。
	眼に入った場合:瞼を広げて眼を水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、症状が続く場合は医師の診察/治療を受けること。
飲み込んだ場合:口をすすぎ、気分が悪い場合は医師の診察/治療を受けること。	
衛生対策	取り扱う際、飲食や喫煙をしないこと。

**7.2 保管**

安全な保管条件	容器をしっかりと密閉し、直射日光を避け風通しの良い冷暗所に保管すること。
	熱、火花、裸火、高温面から遠ざけること。禁煙。
混触危険物質との分離	項目 10 を参照のこと。

**7.3 その他の情報** : 特定の最終用途は、項目 1.2 を参照のこと。

**8. 暴露防止及び人に対する保護措置**

**8.1 管理指標**

暴露限界(日本産業衛生学会)	データなし
ACGIH*暴露限界	データなし
生物学的暴露規制(BEI*)	データなし

**8.2 設備対策**

暴露を軽減するための設備対策	工程隔離、局所排気装置の使用、その他の工学的管理により、空気中の濃度を暴露限度以下に保つこと。
	製品を取り扱う場所の近くに安全シャワー、洗浄設備を設けること。

**8.3 暴露防止**

呼吸用保護具	暴露物質の物理的及び化学的特性に適合した呼吸保護具を着用すること。
	暴露濃度 2,000ppm 未満の場合: 適切なフィルター又は吸収缶を装備した半面呼吸器を着用すること。
	暴露濃度 5,000ppm 未満の場合: 適切なフィルター又は吸収缶を装備したルーズフィット型電動ファン付き呼吸用保護具(PAPR)、又は、一定流量形防塵マスク/化学用カートリッジ呼吸器(防塵マスクは液体エアロゾルにのみ適用)を着用すること。

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドキシンプリー):バッファーEW1**

呼吸用保護具	<p>暴露濃度 10,000ppm 未満の場合:          全面形又は動力付き片面形マスク型呼吸器、又は、適切なフィルター又は吸収缶を装備した給気式連続流/プレッシャデマンド形片面形マスク型呼吸器を着用すること。</p> <p>暴露濃度 200,000ppm 以下の場合:          全面形又はヘルメット/フード形プレッシャデマンド形給気式呼吸器を着用すること。</p> <p>暴露濃度 2,000,000ppm 未満の場合:          適切なフィルター又は吸収缶を装備した自給式呼吸器(SCBA)、又は、プレッシャデマンド形自給式呼吸器(SCBA)を着用すること。</p>
眼及び/又は顔面の保護具	<p>眼の炎症やその他の健康被害を引き起こすエアロゾルや粒子状物質から眼を保護するため、通気性のある保護ゴーグルを着用すること。</p> <p>ガス状有機物質の場合:密閉式ゴーグルを着用すること。</p> <p>蒸気状有機物質の場合:ゴーグル又は換気口付きゴーグルを着用すること。</p> <p>粒子状物質の場合:通気性のあるゴーグルを着用すること。</p>
手の保護具	適切な耐薬品性の保護手袋を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な耐薬品性の衣服を着用すること。

**8.4 特別な注意事項 : 特になし**

**9. 物理的及び化学的性質**

**9.1 物理的及び化学的性質の情報**

外観(物理的状態)	液体
色	無色
臭い	データなし
臭いの閾値	データなし
pH	6.2 (10%溶液)
融点/凝固点(軟化温度/範囲)	178~185°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	>82°C
引火点	データなし
蒸発速度(固体/液体)	データなし
可燃性(液体)	データなし
燃焼性(固体、気体)	データなし
爆発範囲の上限/可燃上限値	データなし
爆発範囲の下限/可燃下限値	データなし
蒸気圧	0.00000176mmHg (25°C、推定値)
溶解度(水溶性)	水に可溶
溶解度(他の溶媒への溶解度)	データなし
相対蒸気密度	データなし
比重	1.3
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	-1.7
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性係数)	データなし
動粘度(動粘性係数)	データなし
分子量	95.5

**9.2 その他の情報 : 特になし**

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー): パッファーEW1**

**10. 安定性及び反応性**

反応性	指示に従って保存及び使用した場合には危険な反応は報告されていない。
化学的安定性	常圧及び室温条件下では危険な反応は報告されていない。
危険有害反応の可能性	加熱すると容器が爆発する恐れがある。
	加熱すると腐食性/有毒な煙を発生する可能性がある。
	火災時に刺激性、腐食性、有害なガスが発生する恐れがある。
避けるべき条件	熱、火花、炎などの発火源
混触危険物質	可燃性物質及び還元剤
危険有害な分解生成物	燃焼中に熱分解又は、燃焼により非常に有毒なガスが発生する可能性がある。
	腐食性/有毒な煙
	刺激性/有毒なガス
その他の情報	データなし

**11. 有害性情報**

混合物として試験したデータはないため、各成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

**11.1 有害性情報**

**11.1.1 グアニジン塩酸塩 (Guanidine hydrochloride)**

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	区分 4	ラット LD <sub>50</sub> * 値 1120mg/kg、908mg/kg(推)、774mg/kg(雌) (IUCLID* (2000))が全て区分 4 に該当している。
急性毒性(経皮)	区分外	ウサギの LD <sub>50</sub> * 値が >2000 mg/kg(IUCLID* (2000))により区分外とした。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS* の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外	ラットの LC <sub>50</sub> * 値が 5.319 mg/L(IUCLID* 2000)より、区分外とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分 2	ウサギを用いた試験(EPA*ガイドライン)により「強い刺激性(highly irritating)」を示し(IUCLID* (2000))、さらに EU* 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	ウサギを用いた試験(EPA*ガイドライン)において、刺激性(irritating)を示し(IUCLID* (2000))、さらに EU* 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2A とした。
呼吸器感受性	分類できない	データなし。
皮膚感受性	分類できない	モルモットを用いた皮膚感受性試験(Buehler Test)(EPA*ガイドライン)において感受性なしの記載(not sensitizing)(IUCLID* (2000))があるが、List 2 のデータであるため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない	in vivo 変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では陰性結果(IUCLID* (2000))が得られている。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	データなし。
誤嚥有害性(吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

11.2 その他の情報：特になし

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー):バッファーEW1**

**12. 環境影響情報**

混合物として試験したデータはないため、各成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

**12.1 生態毒性**

**12.1.1 グアニジン塩酸塩 (Guanidine hydrochloride)**

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	データなし。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	データなし。
オゾン層への有害性	分類できない	データなし。

**12.2 残留性・分解性**

**12.2.1 グアニジン塩酸塩 (Guanidine hydrochloride)**

残留性	データなし	
分解性	易生分解性試験(淡水系) ・試験法: OECD*テストガイドライン(TG301 A-F)	生分解性: データなし
	生分解性試験(海水系) ・試験法: OECD*テストガイドライン(TG306)	生分解性: データなし
	急速分解性の指標 ・BOD*(5日間)/COD*比	急速分解性: データなし

**12.3 生物蓄積性**

**12.3.1 グアニジン塩酸塩 (Guanidine hydrochloride)**

生物蓄積性	魚類での生物蓄積性: 水暴露法及び餌料投与方法 ・試験法: OECD*テストガイドライン(TG305)	BCF*: データなし BMF*: データなし BAF*: データなし
	オクタノール/水分配係数測定試験 ・フラスコ振盪法: OECD*テストガイドライン(TG107) ・HPLC法: OECD*テストガイドライン(TG117) ・緩慢攪拌法: OECD*テストガイドライン(TG123)	log Kow*: データなし log Pow*: データなし log Pow/log Kow*: データなし

**12.4 土壌中の移動性**

**12.4.1 グアニジン塩酸塩 (Guanidine hydrochloride)**

吸着試験	データなし
浸出試験	データなし
Log Koc(土壌吸着係数)	データなし

**12.5 他の有害影響**

オゾン層への有害性	データなし
-----------	-------

**13. 廃棄上の注意**

**13.1 廃棄物処理方法**

製品及び残余廃棄物	内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
	完全に空でない場合は、製品入り容器と同様に処分すること。
	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

**13.2 その他の情報: 特になし**

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー):バッファーEW1**

**14. 輸送上の注意**

**14.1 国際規制**

国連番号 (UN Number)	輸送規制の対象ではない。
国連出荷正式名(国連出荷名) (UN Proper Shipping Name)	輸送規制の対象ではない。
国連分類 (輸送時の危険有害性クラス) (UN Transport Hazard Class)	輸送規制の対象ではない。
容器等級 (Packing Group)	輸送規制の対象ではない。
環境への危険性	環境上危険物として規制されていない。
ユーザー向け特別注意事項	ADR*/RID*(陸上規制)、ADN*(内陸水路規制)、IMO*/IMDG-Code*(海上規制)、ICAO*/IATA-DGR*(航空規制)で規制された危険物ではない。

**14.2 国内規制**

海上規制情報	船舶安全法の規定に従うこと。
航空規制情報	航空法の規定に従うこと。
陸上規制情報	毒物及び劇物取締法、消防法、高圧ガス保安法、道路法の規定に従うこと。

14.3 MARPOL 73/78\* 付属書 II 及び IBC Code\*によるバラ積み輸送される液体物質：本製品には該当しない。

**15. 適用法令**

**① グアニジン塩酸塩 (CAS\*番号:50-01-1、濃度:25~50%)**

化審法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定)
労働基準法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
大気汚染防止法	非該当
海洋汚染防止法	非該当
悪臭防止法	非該当
土壌汚染対策法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
オゾン層保護法	非該当
廃掃法	産業廃棄物
PRTR法	非該当
化学兵器禁止法	非該当
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当

**16. その他の情報**

弊社が販売する試薬類は、試験研究用途向けに限定して販売しております。製品を取り扱う前に取扱説明書等を熟読し、専門知識のある技術者、研究者がご使用ください。本 SDS 情報は、徹底的な調査及び/または研究によって得られたものであり、推奨は専門的判断の慎重な適用に基づいています。また包括的のみならず、ガイドとしてのみ使用されるべきものです。全ての物質及び混合物には、未知の危険性があるため注意して使用する必要があります。当社では、実際の方法、量、使用条件等を管理することができないため、本書に記載されている取扱いまたは製品との接触に起因する損害賠償責任は一切負いません。本 SDS の情報は、市場性や特定目的適合性の黙示の保証を含め、明示的にも黙示的にもいかなる保証をするものではなく、また品質を特定するものでもありません。

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0015-6)**  
**GeneAll Exfection™ Plasmid EF Midi (エンドトキシンフリー): パッファーEW1**

**略語**

- ACGIH (American Conference of Governmental Industrial Hygienists): 米国産業衛生専門家会議
- ADN(European Agreement Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Inland Waterways): 危険物の内陸水路による国際輸送に関する欧州協定
- ADR(European Agreement Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Road): 欧州危険物国際道路輸送協定(道路での危険物の国際輸送に関する欧州協定)
- BAF(Bioaccumulation Factor): 生物濃縮係数(水及び餌)
- BCF(Bioconcentration Factor): 生物濃縮係数
- BEI (Biological Exposure Indices): 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)の勧告値である生物学的暴露指標
- BMF(Biomagnification Factor): 生物濃縮係数(餌)
- BOD(Biochemical Oxygen Demand): 生物化学的酸素要求量(排水中の有機物量の指標)
- CAS(Cheical Abstract Service): ケミカル・アブストラクト・サービス
- COD(Cheical Oxygen Demand): 化学的酸素要求量
- EPA (Envirnmental Protection Agency): 米国環境保護庁
- EU (European Union): 欧州連合
- GHS(The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム
- HMIS(Hazardous Materials Identification System): 危険有害性物質識別システム
- IATA DGR(International Air Transport Association's Dangerous Goods Regulations): 国際航空運送協会危険物規則書
- IBC Code(International Code for the Construction and Equipment of Ships Carrying Dangerous Chemicals in Bulk): 危険化学品のバラ積み運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則
- ICAO(International Civil Aviation Organization): 国際民間航空機関
- IMDG Code(International Maritime Dangerous Goods Code): 国際海上危険物規程で定めたコード
- IMO(International Maritime Organization): 国際海事機構
- IUCLID (International Uniform Chemical Information Database): 国際統一化学物質情報データベース
- LC<sub>50</sub>(Lethal Concentration 50% kill, Median Lethal Concentration): 半数(50%)致死濃度
- LD<sub>50</sub>(Lethal Dose 50% kill, Median Lethal Dose): 半数(50%)致死量
- log Pow/log Kow(octanol/water partition coefficient as logarithm): オクタノール/水分配係数の指数値
- MARPOL (International Convention for the Prevention of Marine Pollution from Ships) 73/78: マルポール条約/1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する 1978 の議定書("MARPOL"=marine pollution/海上汚染)
- NFPA(The National Fire Protection Association): 全米防火協会
- OECD(Organisation for Economic Co-operation and Development): 経済協力開発機構
- RID(Regulations Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Rail): 欧州危険物国際鉄道輸送規則

**引用文献及び参照ホームページ等**

- JIS Z 7252: GHS に基づく化学品の分類方法
- JIS Z 7253: GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- 化学物質規制・管理実務便覧(化学物質管理実務研究会編集、新日本法規出版株式会社出版)
- NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ezCRIC+ (日本ケミカルデータベース株式会社)

以上